令和４年度　東松山市立野本小学校　学校課題研究

自分の思いや考えを豊かに表現できる児童の育成

～国語科を通して～

【はじめに】

校長　　澤田　貴雄

素直で優しい子。という印象が強い野本小学校の児童たちではありますが、表現する力が弱い。各種学習状況調査などからは読解力が低い。国語科の学習に苦手意識を持っている児童が多い。などの課題が浮き彫りにされていました。このような児童たちに、「自分の思いや考えを豊かに表現させてあげたい。」「苦手意識を克服し児童の主体的な学びをさらに伸ばしてあげたい。」というおもいから学校研究課題として研究をはじめました。

校内研修、授業研究会を通して、児童の最終的な姿の具現化。やってみたい、考えてみたいと思えるような学習課題の設定。学び方を学ぶ手立て。協働的な場面の設定。学んだ良さや身につけた力を実感できるような振り返り。など言語活動の充実を図ってまいりました。この研究を通して、国語科の授業が楽しいと思う児童が増えてきました。また、教員も一つ一つ課題を解決していく中で、児童を伸ばすこと、学級の力を高めることに対して喜びを実感できるようになりました。研究に取り組むことの大切さやその力の大きさを改めて感じました。

結びに、本研究の推進にあたり懇切丁寧にご指導をいただきました川島町教育委員会指導主事 山﨑寛幸先生に改めて御礼申し上げます。

【研究仮説】

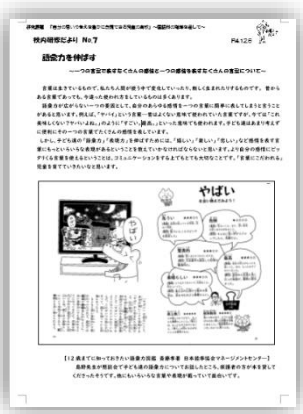
低　事柄の順序などを考えて文章を捉えることができれば、そのよさに気付き、自分の思いや考えを豊かに表現できるようになるだろう。

中　語彙力を高め、文章の構成力を身につけることができれば、自分の思いや考えを豊かに表現できるようになるだろう。

高　基礎的な言語事項や文章構成の基本を習得すれば、自分の思いや考えを豊かに表現できるようになるだろう。

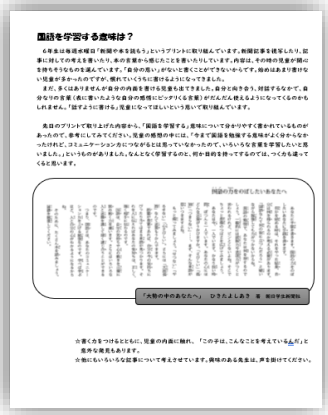
年度当初に、国語科に対する児童の意識調査を行うことで、教師が捉えている児童の実態との間に乖離がないかを把握した。その上で、研究主題に対するアプローチの仕方をブロックごとに考え、実践することとした。

夏季職員研修



校内研修だより No.7

語彙力を伸ばす



国語を学習する意味は？

研修だより

研究協議

【各ブロックの取組】

指導案　2年

低学年

◆単元名◆　【1年生】せつめいする文しょうをよもう　『じどう車くらべ』

【2年生】せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう『馬のおもちゃの作り方』『おもちゃの作り方をせつめいしよう』

1　前時の学習を振り返る

2　本時のめあてを確認する

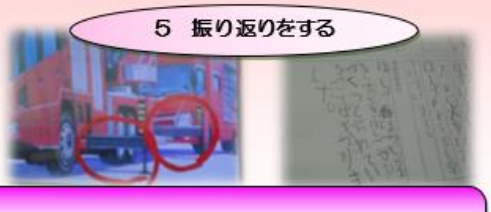
3　個人で考え、ペアや班で伝え合う

めあて　はしご車の「しごと」と「つくり」をまとめ、せつめいをかこう。

めあて　おもちゃの作り方を分かりやすく書こう。

4　3をふまえて文章に書き、まとめる

5　振り返りをする



【研究の手立て】
① 説明文を読んで、説明の工夫を見つけさせる。
② 順序や数を表す言葉、写真や絵や図、文のまとまりなどに着目させ、それを活用して説明文を書く活動を取り入れる。

【成果】

1年
- 「じどう車くらべ」の学習を通して、文章の中の重要な語に注目することができるようになり、模倣して書こうとする児童が増えた。
- 「つくり」と「しごと」を分けた経験から、文章を分けて書くことで、分かりやすく伝えることができると理解できた。

2年
- おもちゃを作りながら読むことで、自然に重要な点を理解していた。自分の説明書でも、作り方の難しい点を詳しく書こうとする姿が見られた。
- 「せつめいのくふう」を見つける学習を通して、おもちゃを作る人に分かりやすく伝わる表現（長さ・数・場所）を活用して書くことができた。

【課題】

1年
- 全体で「つくり」と「しごと」の関連性について確認できたが、それを文章に表す際には個人差が生じてしまい、その差を縮めることが困難だった。

2年
- 教科書の教材文では、分かりやすく伝わる表現が理解できた。しかし、自分で調べた遊びを紹介する学習で、本を参考に遊びやルールを調べる際には、分かりやすく伝わる表現に着目できていない児童がいた。既習内容を応用させるには、継続した指導が必要だと感じた。

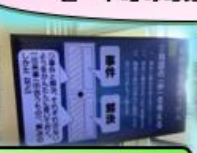
中学年

◆単元名◆　【3年生】組み立てにそって、物語を書こう　『たから島のぼうけん』

【4年生】目指せ！○○の観光大使！都道府県のよさを伝えるリーフレットを書こう！『世界にほこる和紙、伝統工芸のよさを伝えよう』

1　前時の学習を振り返る

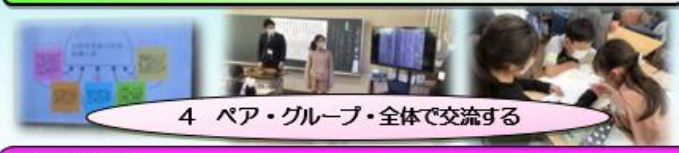
2　本時のめあてを確認する



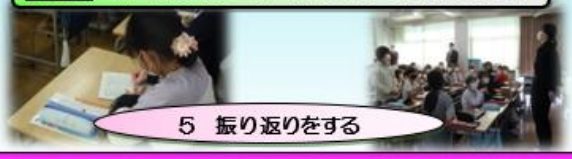
3　自分の考えを整理する

めあて　テーマや登場人物の設定に合わせた「中」の組み立てを考えよう。

めあて　都道府県のよさを伝える組み立てを考えよう。



4　ペア・グループ・全体で交流する



5　振り返りをする

研究の手立て
① 単元のはじめに、知らない言葉を調べ、語彙力を高めていく。
② 学級文庫の充実による読書啓発や辞書の活用などにより、語彙力を高めていく。
③ 文章の型を示して、感想、日記やテーマに取り組む。

指導案　3年

【成果】

3年
- 語彙シートや国語辞典の活用により、意欲的に文章を書こうとする気持ちが高まった。
- 苦手意識のある児童にとっては、文章の型があることで安心して取り組むことができた。

4年
- 単元のはじめに必ず語句調べを行うことにより、分からない言葉を自ら調べようとする習慣が身についた。さらに、辞書やタブレットそれぞれの良さに気づき、使い分けをする姿が見られた。
- 文章構成の型を示すことにより、書きたいことを整理し順序立てて組み立てることができるようになった。

【課題】

3年
- 語彙力は高まったが、活用するための文章構成を理解することができず、有効的に活用できない児童がいた。
- 文章の型を示すことによって、想像力が豊かな児童の表現の幅を狭めてしまったので、型の示し方を検討する必要性がある。

4年
- 語彙力は高まったと感じたが、生活や学習に生かすことが難しい児童もいた。そのため、高めた語彙力を活用するように指導する必要がある。
- 3年生同様に、文章の型は必要な児童だけに示したほうがよいのか検討していきたい。

高学年

◆単元名◆

【5年生】資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう　『固有種が教えてくれること』

【6年生】表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう　『鳥獣戯画』を読む

1　前時の学習を振り返る

2　本時のめあてを確認する

3　自分の考えを整理する

めあて　資料には、どのような効果があるか考えよう

めあて　筆者の書き方の工夫を生かして、解説文を書こう

4　共有する

5　本時のまとめをする

6　振り返りをする

研究の手立て

① 接続語、指示語、キーワードなどの言語事項を押さえ、適切な使い方を指導する。
② 文章の書き方（構成中のメモなど）の書き方を示し、書く活動を取り入れる。
③ 視写や言葉集めの辞書の活用などにより、語彙力を高める。

指導案　5年

【成果】

5年・資料と文章を線で繋いだり、キーワードを線で囲ったりすることで資料やキーワードを使用した際の効果について理解できた。
・文章の構成を押さえて論の進め方を確認したことで、それを生かして説得力のある意見文を書くことができた。

6年・表現の工夫や文章構成をとらえるために、絵と文章を色分けし線で結ぶことは視覚的にも分かりやすく、有効な手段であった。
・自分の書きたい場面を選んだり、読み合う活動を取り入れたりしたことで、意欲的に取り組むことができた。

【課題】

5年・表現したい思いはあっても、言葉や文の構成を知らないため、自分の思いを相手に伝えることが困難な児童が多く、繰り返しの指導が必要である。
・読解力が乏しく、読み取りに時間がかかるため、語彙力を増やすとともに、文章に親しむ時間を充実させていく必要がある。

6年・この授業後に、学習内容を生かしパンフレット作りを行ったが、伝えたいことを適切に表現するには個別の指導が必要である。
・表現の工夫を体得したり、語彙力を伸ばしたりするためには、他単元や他教科などで繰り返し指導していく必要がある。

ひまわり

「お話名人をめざそう！」

めあて　自分が伝えたいことを相手にわかるように話そう

研究の手立て

① 朝の会のスピーチや普段の生活の会話から、一人一人の課題を見分ける。
② 主語と述語の関係、時や場所の表し方などを個別の授業で学習を進める。
③ 話の内容をわかりやすくするだけでなく、姿勢や目線、声の出し方などについても繰り返し練習する。

朝の会のスピーチ

友達や先生との会話

個別の授業

姿勢・目線・声の出し方

【成果】

- 経験したことを説明も加えながら発表することができた。（1年男児）
- 日直の司会やスピーチなど前に出て話すことができた。（1年男児）
- 自分の経験を時系列に沿って話すことができた。（2年女児）
- 聞き手を見てはっきりと話せることができた。（3年男児）
- 本人なりに話をまとめ発表することができた。（3年男児）
- 自分の要求を言葉にして伝えることができた。（4年男児）
- 本人なりの言葉で思いを伝えようとするようになった。（4年男児）
- 質問に正対した答え方ができるようになってきた。（5年男児）

【課題】

- 姿勢を保持したり、目線を合わせたりすることが難しい。（1年男児）
- 自信がなくなると声が小さくなってしまう。（1年男児）
- 内容を詳しく話すことが難しい。（2年女児）
- 自分の出来事を時系列で話すことが定着していない。（3年男児）
- 質問に正対した答えができない。（3年男児）
- 質問されていることが分からずに答えることが難しい。（4年男児）
- 話す内容を自力で考えることが難しい。（4年男児）
- はっきりとした口調で話すことができるが早口である。（5年男児）

【授業実践部の取組】

《１》語彙を増やす活動

・辞書をすぐに使える環境にして言葉を調べたり、詩の暗唱やあのねノートに取り組んだりした。

《２》チャレンジタイムの導入

・２学期から毎週水曜日の朝１０分間、コバトン問題集や国語プリント集を活用したり、視写を行ったりして、児童の実態に応じた問題を解いた。

《３》授業の流れ

・算数と同様に、めあて（青で囲む）、まとめ（赤で囲む）、ふり返り（のもっとを活用）をノートに書かせ、授業を進めた。

・書くことにおいて、書く作業や組み立ての作業にタブレットを活用した。

《４》国語フォルダ

・国語共有フォルダを作成し、各学年共通で使用できるプリント類を蓄積した。

〔成果と課題〕

○辞書の活用や詩の暗唱、あのねノートの取組により、書く力や語彙力が高まった。

○チャレンジタイムの解答から、児童が苦手としていることを分析し、指導に生かすことができた。

○ノートの書き方を算数と同様にすることで、児童が見通しをもって、意欲的に学習に取り組めた。

○国語共有フォルダの活用により、資料の作成時間を短縮でき、教材研究に充てることができた。

●児童の実態に応じて問題を選定したが、理解が難しく繰り返し取り組む必要があった。

●授業の流れが学年によって差があったため、さらに研究を進め大まかな流れを統一していけるとよい。

【調査環境部の取組】

《１》国語の授業の意識調査

・研究主題である「自分の思いや考えを豊かに表現できる児童の育成」のため、児童に国語の学習についてのアンケートをとり、活用した。

《２》チャレンジタイムで活用できる問題集の精選

・コバトン問題集や市販の問題集などから、学年の実態に応じた問題を精選し、チャレンジタイムで活用した。

《３》授業で活用できる掲示物の作成

・国語の教科書巻末付録にある「言葉の宝箱」を掲示し、授業で色々な語彙を活用できるようにした。

〔成果と課題〕

○児童の意識調査から、研究仮説や指導の手立てに生かすことができた。

○問題集の精選時間の削減により、児童の実態や指導の重点に応じたプリントを活用することができた。

○掲示物の活用により、授業の中で色々な語彙を意識的に活用することができた。

●問題集の内容によって児童が理解しづらいものもあったため、１０分程度で取り組める系統的な問題集があるとよかった。

●今後、タブレットで活用できるワークシートなども作成できるとよい。

【成果と課題】

児童に対し、５月と２月に国語科の意識調査を行った。「自分の思いや考えを表現できるか」（書くことと話すことのそれぞれの観点で調査）という問いに対し、低学年・高学年は、５月とあまり変わらなかったが、中学年では大きな伸びが見られた。高学年になってしまうと、苦手意識が定着してしまうと推測でき、中学年の時期にいかに意識して指導するかが一つのターニングポイントと考えられる。また、児童にとって、国語科の授業内容もさることながら、日常取り組んでいる日記や新聞記事に対する意見文など、積み重ねの活動が自信となっていることも判明した。また、グループなどの学習形態を工夫することで、話しやすさに繋がることも明確になった。

今後も、国語科の学習を中心としながらも、他教科との関連性を見据え、児童が自分の思いや考えを豊かに表現できるよう指導の工夫を検討していく必要がある。